

令和8年度 日本大学生産工学部 総合型選抜第1期（課題型）募集要項

日本大学生産工学部では、大学での勉学に強く関心を持つ人に対して広く門戸を開放しています。高等学校卒業者はもちろんですが、高等学校卒業程度認定試験の合格者や、社会における経験を経た後に、大学で学びたい人達なども、この総合型選抜第1期（課題型）に出願することが可能です。

本学部では、日本大学生産工学部を第一志望とし、勉学意欲があり、志望学科のアドミッション・ポリシー（p.4～6）に合う人を求めます。

1 出 願 資 格

次の①～③のいずれかに該当する者

- ① 高等学校または中等教育学校を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者。
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（高等専門学校第3年次修了者等）及び令和8年3月修了見込みの者。
- ③ 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和8年3月31日までにこれに該当する見込みの者（学校教育法施行規則第150条）。
 - (1) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
 - (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
 - (3) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者。
 - (4) 文部科学大臣の指定した者。
 - ・外国の大学入学資格である国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、GCEA レベル（GCEA レベル2科目以上でE評価以上を有している方が対象）、国際Aレベル（国際Aレベル2科目以上でE評価以上を有している方が対象）、欧州バカロレア資格を保有する者。
 - ・国際的な評価団体(WASC, CIS, ACSI, NEASC, Cognia, COBIS)の認定を受けた教育施設の12年の課程を修了した者。
 - ・その他
 - (5) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）及び令和8年3月31日までに18歳に達する者。
 - (6) 18歳に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者。

2 出 願 要 件

次の要件をすべて満たす者。

- ① 本学部（学科）を第一志望とし、合格した場合は本学部（学科）に入学することを確約できる者
- ② 志望する学科のアドミッション・ポリシー（p.4～6）について、オープンキャンパス等に参加して説明を受けるか、募集要項やホームページの当該情報等を閲覧し、これを理解した上で出願書類を提出できる者。

3 募 集 学 科 ・ 募 集 人 員

機械工学科	23名
電気電子工学科	20名
土木工学科	22名
建築工学科	23名
応用分子化学科	17名
マネジメント工学科	17名
数理情報工学科	17名
環境安全工学科	14名
創生デザイン学科	15名

※ 合格基準に達しない場合には、合格者数が募集人員に満たない場合があります。

4 出 願 手 続

日本大学インターネット出願サイトにアクセスし、出願登録と入学検定料の納入を行ってください。インターネット出願サイトへのアクセス方法は、別紙「日本大学・日本大学短期大学部インターネット出願の利用手順」を参照してください。

入学検定料納入後、インターネット出願サイトから「宛名ラベル」及び「①出願確認票」をA4サイズの用紙にプリントアウトし、市販されている封筒に「宛名ラベル」を貼付の上、プリントアウトした「①出願確認票」と以下の書類（②～⑤）を封入し、必ず簡易書留で郵送（必着）するか、生産工学部入試センターへ直接持参してください。

① 令和8年度日本大学出願確認票（大学送付用）

※ 別紙「日本大学・日本大学短期大学部インターネット出願の利用手順」を参照してください。

② 出身学校調査書等

※1 出願資格③の(1)～(4)に該当する者は、修了（見込み）証明書と成績証明書を提出してください。

※2 出願資格③の(5)に該当する者は高等学校卒業程度認定試験合格成績証明書又は合格見込み成績証明書を提出してください。

※3 出願資格③で調査書を提出できない受験者の書類審査については、本試験に出願した全志願者の平均点と同評価とします。

③ 志望理由書（本学部指定書式）

④ 資格・受賞歴等がある場合は、資格・受賞歴等一覧表（本学部指定書式）

※資格・受賞歴等は、本書式に記載された内容のみを書類審査の評価対象とします。

取得した全ての資格・受賞歴等を漏れなく記載してください。

⑤ 課題 ※ 提出された課題については、一切返却いたしません。

⑥ 入学検定料 35,000 円

※ 別紙「日本大学・日本大学短期大学部インターネット出願の利用手順」を参照してください。

※ インターネット出願サイトでの入力だけでは正式な出願手続完了とはなりません。出願書類が本学で受理されて初めて正式な出願となりますので、必ず出願書類を生産工学部入試センターへ提出してください（出願締切日必着）。

※ 受験に際し、病気・負傷や障がい等のために、受験・就学上の配慮を希望される場合は、出願前のできるだけ早い時期に必ず日本大学生産工学部入試センターにお問い合わせください。

5 課題公開期間

令和7年7月11日（金）～令和7年10月8日（水）

※課題は生産工学部ホームページ「総合型選抜第1期（課題型）」内のリンクから閲覧可能です。

<https://www.cit.nihon-u.ac.jp/admission/information/type-ao/>

閲覧方法の詳細は、上記ページをご確認ください。



6 出 願 期 間

令和7年10月1日（水）～令和7年10月8日（水） 《必着》

※窓口受付時刻（平日 10:00～17:00）

7 出願書類の送付先

〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1

日本大学生産工学部教務課入試センター 電話：047-474-2246

8 選 考

書類審査（出身学校調査書等）、課題（課題に対する口頭試問含む）、面接。合否判定は総合点によるものではなく、各項目に基準を設けて行います。

① 日 時 令和7年10月18日（土） 10時00分～

② 場 所 日本大学生産工学部津田沼キャンパス

③ 選考方法 (1) 書類審査（出身学校調査書等）【配点100点】

・「全体の学習成績の状況」の値【50点】

・出身学校調査書等（「全体の学習成績の状況」以外の提出書類の各項目について総合的に評価）【50点】

(2) 課題（課題に対する口頭試問含む）【配点100点】

(3) 面接【配点100点】

※面接は課題に対する口頭試問も実施します。

9 合格発表

令和7年11月4日（火） 正午

合格発表日から入学手続締切日まで、「インターネットによる合否案内」を実施していますので、インターネット出願の「マイページ」内の「合否案内」より確認してください。なお、誤操作・見間違い等を理由とした入学手続期間終了後の入学手続は一切認めません。

10 入学手続締切日

令和7年11月14日（金） 17時（納入金支払締切）

「マイページ」内の「入学手続」より手続きを進めてください。

※注意1… 入学手続完了後（入学手続時納入金を全額納入した後）に、やむをえない理由によって本学への入学を辞退する場合は、電話により令和8年1月31日（土）17時まで日本大学生産工学部入試センターへ申し出てください。

申し出を受理しますと、「入学辞退願」を本学より送付いたしますので、必要事項を記入の上、速やかに返送してください。手続き終了後、入学金を除く入学手続時納入金（諸会費等を含む）は返還いたします。ただし、いったん提出された書類及び入学金は返還いたしません。

なお、令和8年2月1日（日）以降に申し出があった場合は、書類及び入学金を含む入学手続時納入金は返還いたしません（傷害保険については、約款の定めるところによる）。

《注意》

① 入学辞退の申し出受理に際しては、直接本人の意思確認をさせていただきます。

② 入学辞退の申し出を、本学が受理した後の辞退の取り消しは認めません。

③ 「入学辞退願」が提出されない場合、入学金を除く入学手続時納入金の返還手続きができませんので、必ず提出してください。

※注意2… 総合型選抜第1期（課題型）は本学部（学科）を第一志望とし、合格した場合は本学部（学科）に入学することを確約できる者に対する試験であることから、合格後に他大学及び日本大学の他学部・他学科の入学試験を併願することはできませんのでご注意ください。

※注意3… 出願資格を「見込み」で出願し、入学時までに大学入学資格を得られなかった場合は、入学が許可されません。

※注意4… 出願資格を「見込み」で出願し、本学への入学手続を完了（入学時納入金を全額納入）した後に、入学時までに大学入学資格を得られなかった場合、入学許可は取り消しとなります。その際、入学時納入金から入学金を除いた金額（諸会費を含む）を返還します。

11 入学手続時納入金（一括1,000,000円）

（内訳）

項 目	年 額	入学手続時納入金 （前 期）	9月納入金 （後 期）	摘 要
入 学 金	260,000 円	260,000 円	— 円	入学時のみ納入
授 業 料	1,100,000	550,000	550,000	毎年度同額納入
実 験 実 習 料	80,000	40,000	40,000	2年次は9万円 3・4年次は各10万円
施 設 設 備 資 金	220,000	110,000	110,000	1～4年次同額納入
維 持 会 費	30,000	30,000	—	毎年度同額納入
校友会費（準会員）	10,000	10,000	—	毎年度同額納入
合 計	1,700,000	1,000,000	700,000	

（備 考）① 1年次後期分以降の納入期限は、後期分9月30日、前期分4月30日となります。

（ただし、土・休日の場合は金融機関前営業日）

② 卒業年度に校友会費（正会員）初年度分を1万円納入。

12 入学前学習

本学部では、総合型選抜及び学校推薦型選抜等によって早期に入学が決定した方を対象に、大学での学修に対する準備及びみなさんの大学生活をより充実したものにするため、入学前に行うプログラムをご用意しています。

令和7年度は、数学のスクーリングや映像授業による自宅学習のほか、各学科から専門分野に関する課題等を実施いたしました。

13 生産工学部アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

生産工学部では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学部では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- ① 豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって社会（日本社会・国際社会）に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。
- ② 問題発見及びその解決のために、必要な情報を収集・分析し、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、表現しようと努力する人。
- ③ グループやチームをとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、経営や生産管理ができる技術者になろうとする人。

なお、本学部に入学を志す者は、「求める学生像」を理解して受験していると判断し、入学者選抜では、学力考査等により、4年間の学修に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性を評価します。

14 各学科アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

機械工学科

機械工学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- (1) 豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって社会（日本社会・国際社会）に貢献することを目標とし、機械に深い興味を持ち、ものづくりに夢と情熱をそそぐ意思がある人。
- (2) 問題発見及びその解決のために、筋道を立てて物事を考え、その過程と結果を的確に言葉で表現する素養のある人。
- (3) 知的好奇心が旺盛で、チャレンジ精神に富み、グループやチームをとおして自己を高め、経営や生産管理ができる機械技術者になろうとする人。

電気電子工学科

電気電子工学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- (1) 電気電子工学科での履修に必要な基礎学力を有する人。
- (2) 電気電子情報通信に興味があり、ものづくりを指向し、経営・生産管理などに興味を持ち、将来、電気電子情報通信の技術者として社会に貢献することを目指す人。
- (3) 具体的な目標をたて、その目標達成に向けて自ら考え、自ら道を開く能力を有する人。
- (4) 他者と協働して問題解決に当たり、リーダーシップを発揮し、自らをも高める努力をする人。
- (5) 高い倫理観と道徳観を持ち、社会性と協調性を有する人。

土木工学科

土木工学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を4年間の学習と教育により育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修することのできる者を求めています。

「求める学生像」

- (1) 豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって、土木工学により社会(日本社会・国際社会)に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。
- (2) 問題発見及びその解決のために、必要な情報を収集・分析し、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、表現しようと努力する人。
- (3) グループやチームでの活動をとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、経営や生産管理ができる技術者になろうとする人。

建築工学科

建築工学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- (1) 住居・建築・都市・地域環境に深い興味を持ち、社会に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に取り組むことができる人。
- (2) 観察力・表現力・対話力・創造力を有し、問題解決能力・応用能力の基盤となる知識や技術を修得し、自ら表現しようと努力する人。
- (3) 社会性・協調性を有し、ボランティア・コミュニティ活動、各種コンクールなどに積極的に挑戦する意欲がある人。
- (4) グループやチームをとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、建築における経営や生産管理ができる技術者になろうとする人。

応用分子化学科

応用分子化学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- (1) 豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって社会(日本社会・国際社会)に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。
- (2) 応用分子化学科での履修に必要な基礎学力を有し、問題発見及びその解決のために、必要な情報を収集・分析し、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、表現しようと努力する人。
- (3) グループやチームをとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、経営や生産管理ができる化学技術者になろうとする人。

マネジメント工学科

マネジメント工学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- (1) 豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもってマネジメントの視点から社会(日本社会・国際社会)に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。
- (2) 問題発見及びその解決のために、マネジメントに関わる情報を収集・分析し、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、表現しようと努力する人。
- (3) グループやチームをとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、生産工学と経営・管理能力を駆使し、新しいことに果敢に挑戦する人。

数理情報工学科

数理情報工学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- (1) 豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって情報化社会に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。
- (2) 問題発見及びその解決のために、必要な情報を数理工学、情報工学、メディアデザイン工学を活用し、収集・分析し、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、表現しようと努力する人。
- (3) グループやチームをとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、経営や生産管理ができる情報処理技術者になろうとする人。

環境安全工学科

環境安全工学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、地球環境問題の解決に貢献できる人材を育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- (1) 豊かな知識・教養を身につけ、高い倫理観をもって、地球環境問題の解決に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。
- (2) 問題発見及びその解決のために、必要な情報を収集・分析し、グローバルな視点に立ち、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、表現しようと努力する人。
- (3) グループやチームでの協働をとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、地球環境を守ることを尊重した経営や生産管理ができる技術者になろうとする人。

創生デザイン学科

創生デザイン学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に示された生産工学部の「求める学生像」に加え、以下に示す本学科の「求める学生像」も理解し、意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- (1) 豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって社会（日本社会・国際社会）に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。すなわち、社会や環境の動向に深い関心を持ち、工学知識や技術および技法をもってこれに貢献する意欲がある人。
- (2) ニーズ発見から問題解決までに必要な情報の収集と分析を通してさまざまな領域を関連付けて考え、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、わかりやすく表現しようと努力する人。
- (3) グループやチームをとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、「人との」「人とこと」の理想的な関係を築くことに強い関心を持ち、この問題解決に向けた新しい提案を生み出そうとする人。

【学科における人材の養成その他の教育研究上の目的 及び コース等紹介】

生産工学部の各学科の教育内容や特色、設置コース等については、生産工学部ホームページからご確認ください。

生産工学部ホームページ 学科紹介 (<https://www.cit.nihon-u.ac.jp/department/>)



※ 各学科のコース分けは入学後に希望調査等を実施し、決定されます。

※ 次の学科及びコースは J A B E E（日本技術者教育認定機構）により国際的な要求水準を満たした技術者教育プログラムであることを認定されています。

- ・土木工学科
- ・建築工学科
- ・応用分子化学科（国際化学技術者コース）
- ・数理情報工学科（コンピュータサイエンスコース）

※ コースについては変更される場合があります。

【少数精鋭スペシャルプログラムについて】

本入学者選抜に合格して入学した場合、所属学科の学びにプラスして以下の4つのプログラム、Glo-BE（グローバル・ビジネスエンジニア人材育成プログラム）、Entre-to-Be（事業継承者・企業家育成プログラム）、Robo-BE（ロボットエンジニア育成実践プログラム）、STEAM-to-BE（好奇心からイノベーションへつなげるモノづくり人材育成プログラム）から選択して学べます。

それぞれのプログラムの詳細は、生産工学部ホームページからご確認ください。

生産工学部ホームページ 少数精鋭スペシャルプログラム
(<https://www.cit.nihon-u.ac.jp/about/special-program/>)



【個人情報の取り扱いについて】

日本大学（短期大学部を含む）では、ご提出いただきました志願者の氏名・住所等の個人情報は、入学者選抜の出願受付、実施、合格発表、さらには入学に至る一連の手続と、日本大学で学生生活を始めるに当たって必要となる書類・お知らせ等の送付及び入学者データの統計処理のために使用いたします。

なお、日本大学はこれらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、日本大学及び当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて志願者の個人情報を利用することはありません。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1
日本大学生産工学部
電話 047(474)2246